

No.585 令和6年3月

はまな

静岡県水産・海洋技術研究所浜名湖分場

〒431-0214

静岡県浜松市中央区舞阪町弁天島 5005-3

TEL 053-592-0139 FAX 053-592-0906

<https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/hamanako>

e-mail: suigi-hamanako@pref.shizuoka.lg.jp

目次

浜名湖の環境を「みえる化」する	・・・	1
令和5年の浜名湖漁獲統計	・・・	5
トラフグ 2022年漁期の結果と2023年漁期について	・・・	8
静岡県漁業士会総会の開催	・・・	11
西部管内で初めて農山漁村ときめき女性が認定されました	・・・	11
体験学習施設「ウオット」より	・・・	12

浜名湖の環境を「みえる化」する

小林 憲一

はじめに

浜名湖の環境情報を把握することは、浜名湖内の水産資源を利用している漁業関係者や我々研究機関にとって大変重要な事です。水産資源は水温、塩分等、生息環境の変化に常にさらされており、これらの生息場所（漁場）、成長、そして増減に大きく影響しているからです。浜名湖分場（以下、分場と略します）では、湖内の環境情報を得るために調査船による定点観測調査（月1回）、有害・有毒プランクトン調査（随時）等を実施しており、水温、塩分、DO(溶存酸素)等の情報を漁業関係者に提供しています。また、ノリ漁期中は養殖業者に対して湖内の水温分布等の情報提供を行っています。これらの情報提供方法はFAX、e-mail、SNS、分場Webサイト等、様々であり、提供先の方々が利用しやすいと思われる方法を採用しています。

しかし、浜名湖は都田川からの河川水の流入、遠州灘からの海水の流入出があり湖内の環境は常に変化しており、漁業関係者からはさらに短い間隔（リアルタイム）の連続した情報提供を望む声があります。

そこで、今回はこの要望に応えるために分場が行った取組について紹介します。

必要な情報は何？

浜名湖内の漁業では何の情報が必要とされているのでしょうか？今回は、袋網、採貝、刺網、ノリ養殖、カキ養殖について考えてみました。一般的に漁業で必要とされている情報のうち必要性の高いと思われるのは水温、流れ、塩分ですが、浜名湖ではさらに栄養塩、DO、有害・有毒プランクトンの発生情報が必要と思われます。これらの情報の必要性について、これまでに分場職員が聞き取った内容を基に漁業種類別に整理しました（表1）。水中の生物に直接影響する水温が全ての漁業種類で必要とされているのは当然ですが、流れは袋網と刺網、栄養塩は採貝、ノリ養殖及びカキ養殖、DOは採貝とカキ養殖、塩分はノリ養殖とカキ養殖、有害・有毒プランクトンの発生情報が袋網、採貝、刺網及びカキ養殖で必要とされていると思われます（もちろん、人によって必要な情報とその優先順位は異なります）。

表1 必要な情報(漁業種類別)

漁業種類	必要な情報					
	水温	流れ	栄養塩	DO	塩分	有害・有毒プランクトン
袋網	○	○				○
採貝	○		○	○		○
刺網	○	○				○
ノリ養殖	○		○		○	
カキ養殖	○		○	○	○	○

必要な情報をどうやって集める？

では、これらの情報をどうやって集めるか考えてみます。分場による定点観測調査や有害・有毒プランクトン調査によって得られたデータは、実際に調査船を使って現場で観測したデータ、もしくは現場で採取したサンプルを分場に持ち帰った後に分析して得た実測データで、調査時の「スナップショット（瞬間）」情報です。今回、漁業関係者から要望のあった短い間隔（リアルタイム）の連続した情報ではありません。そこで、リアルタイム、もしくはそれに近いデータを取得する試みとして、連続観測機器メーカーに依頼し2023年10月～2024年3月の間、湖内の2か所（鷺津、大崎）に機器を設置して

水温データの収集を行いました（図1,2）。なお、今回設置した機器は異なる3つの水深（3層）の水温観測が可能で、観測データはメーカーが用意したクラウドサーバーに順次アップロードされます。分場からはクラウドサーバーにアクセスしてデータの確認とダウンロードができる仕組みです。実際、今回設置した連続観測機器のデータが保存されているクラウドサーバーに分場のPCからアクセスしたところ、画面上でグラフ化されたデータをリアルタイムで確認することができました。これを見ると周期的な変化があるとともに少しではありますが水深によって値が異なっていたことがわかります（図3）。

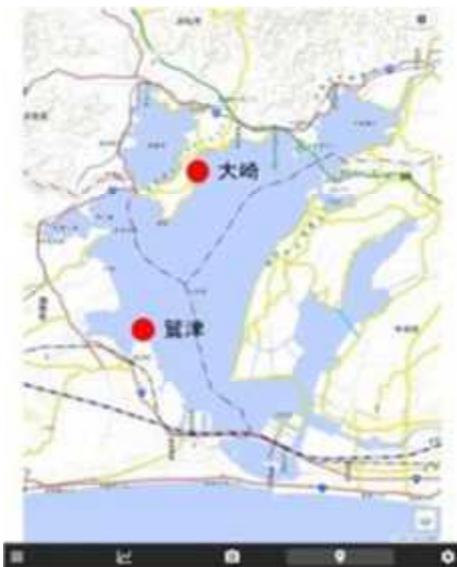


図1 今回の設置場所(鷺津,大崎)



図2 設置した連続観測機器



図3 水温観測データの表示例(横軸:日時, 縦軸:水温℃)

情報の提供方法は？

次に、分場が集めた情報はどのようにして情報の必要な人に提供すれば良いか考えました。情報発信方法を分類すると、発信元（今回の場合は分場）から一方的に情報を送信する「PUSH(プッシュ)型」、情報の必要な人（今回の場合は漁業関係者）が発信元にアクセスして情報を取得する「PULL(プル)型」の2つがあります。大雑把に言うと発信元から提供するFAX、e-mail、SNSが「PUSH型」、情報の必要な人によるWebサイト等へのアクセスが「PULL型」になります（表2）。一般的に、緊急性のある情報は「PUSH型」、それ以外の情報は「PULL型」を採用しているケースが多いと思われるので、浜名湖の場合は有害・有毒プランクトンの発生情報、水温の急激な変化情報等は「PUSH型」、それ以外は「PULL型」の提供が適していると思われる。

今回の水温情報の場合、平常時は関係者が分場Webサイトにアクセスしてグラフ等を見てもらう「PULL型」による情報提供を行い、急激な水温変化があった場合など緊急性の高い時は分場からe-mail、SNS等で一方的に送信して注意喚起する「PUSH型」による情報提供を行う等、水温変化の「度合い」に応じて情報発信方法を変えることが望ましいと思われます。さらに、これらの情報の「見せ方」についても工夫が必要です。緊急性の高い情報は必要な情報を極力「簡潔」で「わかりやすく」伝えることが最優先であり、それ以外の情報はグラフ等を使い見る人が必要な情報に「直感的」にアクセスできることが必要です。これを実現するためには、現在の分場Webサイトの大幅な再構築が必要です。

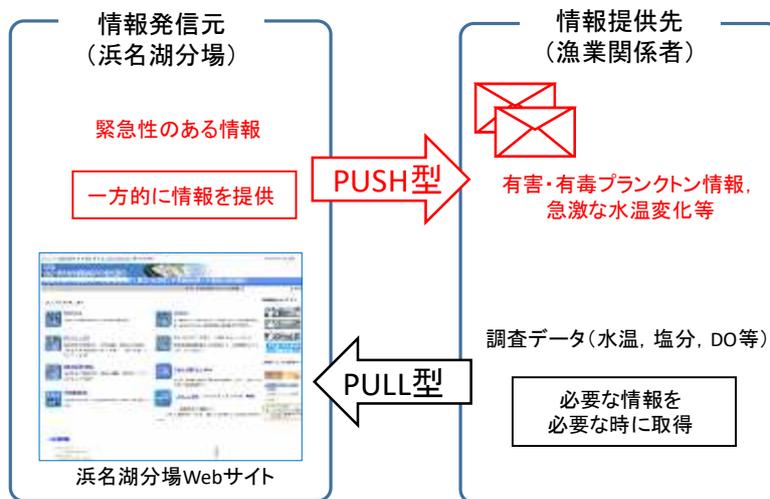


図4 情報発信方法の違い

表2 PUSH(プッシュ)型とPULL(プル)型の違い

	メリット	デメリット
PUSH(プッシュ)型	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有が簡単 ・必要な情報を見逃すことが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報が一方通行になりがち ・不必要な情報が送られてくるケースがある
PULL(プル)型	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報のみアクセスして取得できる 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報にたどり着けない(見落とす)可能性がある

最後に

今回は浜名湖の環境の「みえる化」について、連続観測機器による水温観測を例として説明しました。実は、この連続観測機器メーカーのカタログによると水温以外にもクロロフィル、DO、塩分濃度、流速等のセンサを取付けることが可能です。これらの複数のセンサを実装した連続観測機器を浜名湖内の複数の箇所に設置することで、表1に記載した情報提供が可能となります（その分、価格と維持管理費は高くなります）。

今回は期間を限定した設置でしたが、常設する場合は購入費用だけでなくメンテナンス費用の確保、設置場所の選定等について検討が必要です。特に、

センサのメンテナンスは観測データの正確さに直接影響しますので不可欠です。水産・海洋技術研究所（焼津）が駿河湾内に4基設置している水温観測ブイの場合では、2~3か月に1回程度陸揚げして付着物の除去等を行っています。

現在、分場では関係者のニーズに応えるために、提供する情報の種類、提供方法や頻度（表示の仕方、提供するタイミング等）について検討を始めています（図5）。今後、漁業関係者を含め、浜名湖に関係する業務を行っている方々のご意見やご要望をお聞きする機会があると思いますので、その際にご協力をお願いします。

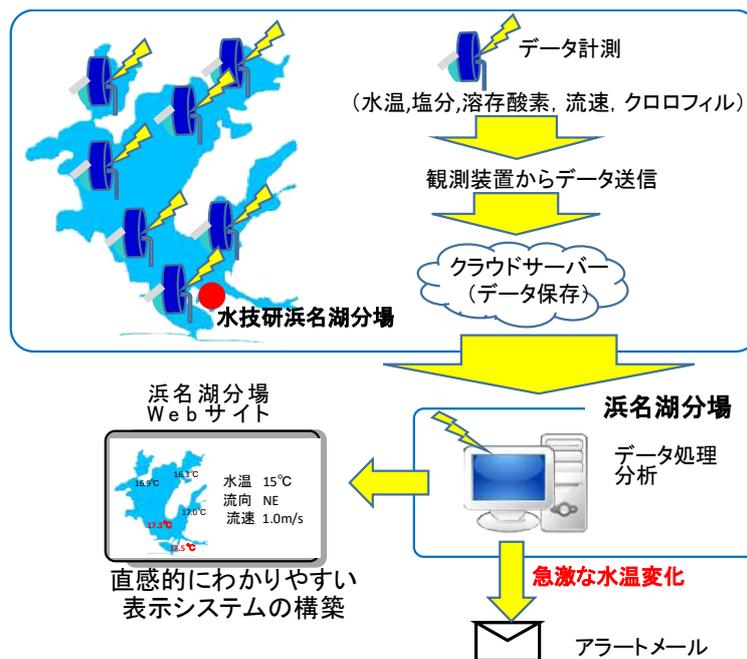


図5 浜名湖の情報提供体制(イメージ)

令和5年の浜名湖漁獲統計

吉川 昌之

浜名漁業協同組合（以下「浜名漁協」といいます。）の資料を基に、令和5年の浜名湖における漁業種別（養殖を除く）漁獲量を図1に示しました。総漁獲量は443トンで、その内訳（漁獲量（総漁獲量に占める割合））は採貝が最も多く363トン（82%）、次いで袋網が52トン（12%）、三枚刺網が18トン（4%）及びその他（うなぎつば、メッコ網及びた

きや漁など）が10トン（2%）でした。前年は、採貝が196トン（68%）、袋網が61トン（21%）、三枚刺網が23トン（8%）及びその他が10トン（3%）でした。袋網と三枚刺網は前年からやや減少しましたが、採貝が大きく増加したため、総漁獲量は前年の289トンの153%となりました。

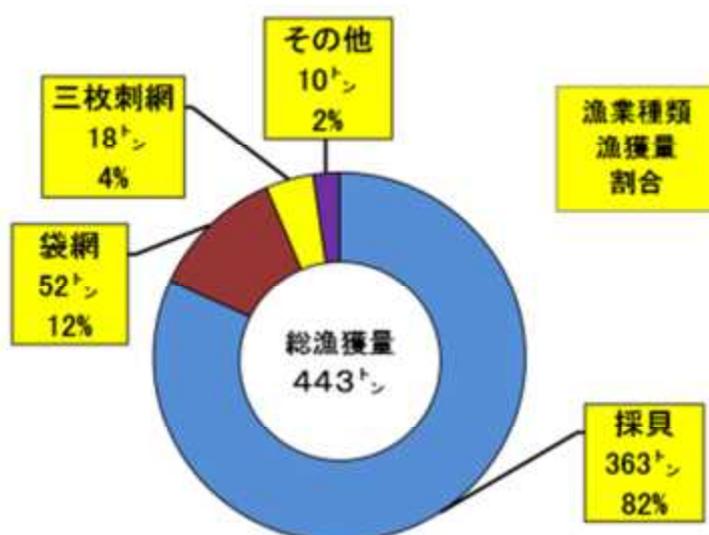


図1 令和5年の浜名湖における漁業種別漁獲量

次に、漁獲金額を図2に示しました。総漁獲金額は784百万円で前年の819百万円からやや減少しました。内訳（漁獲金額（総漁獲金額に占める割合））は、メッコ網が最も多く425百万円（54%）、次いで採貝が191百万円（24%）、袋網が101百万円（13%）、三枚刺網が40百万円（5%）、うなぎつばが17百万円（2%）及びその他（たきや漁等）が10百万円（1%）でした。前年は、メッコ網が542百万円（66%）、採貝が89百万円（11%）、袋網が120百万円（15%）、三枚刺網が44百万円

（5%）、うなぎつばが15百万円（2%）及びその他が9百万円（1%）でした。採貝が倍増した一方で、メッコ網と袋網は減少しました。図3に、平成25年から令和5年までの漁獲金額の推移を示しました。採貝の漁獲金額は2年連続で前年比2倍以上となったものの、平成26、27年に比べると大きく減少したままです。図4には漁業種別の総漁獲金額に占める割合の推移を示しました。令和5年は採貝の割合は少し増加しましたが、引き続きメッコ網の割合が最も多くなっています。

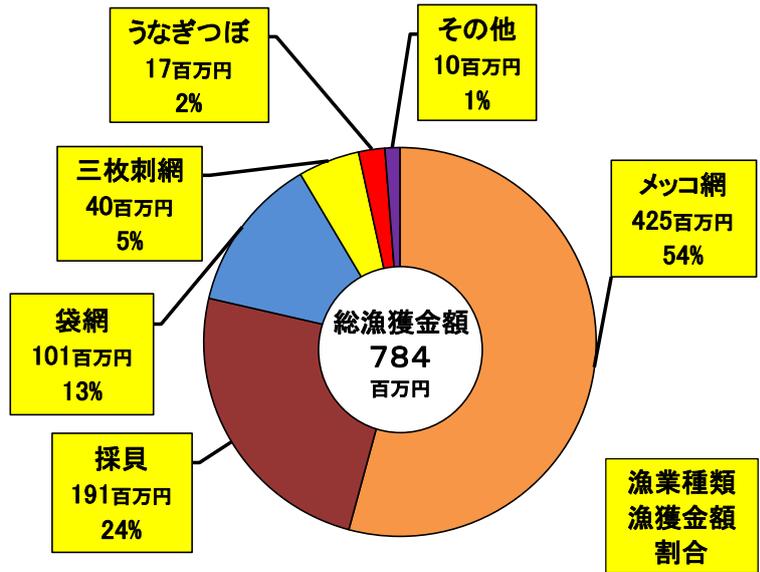


図2 令和5年の浜名湖における漁業種別漁獲金額

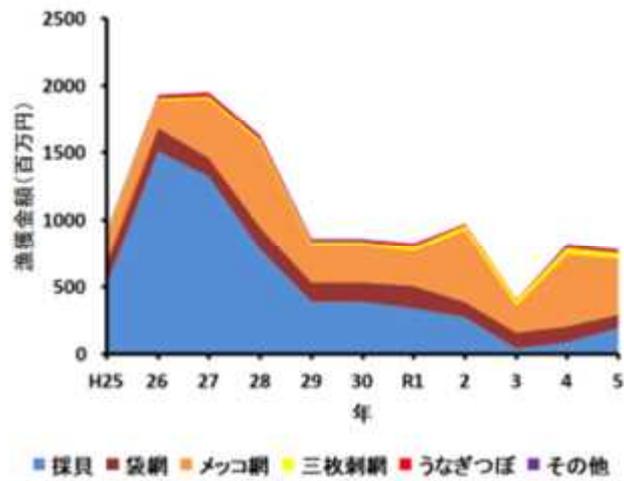


図3 平成25年から令和5年までの漁獲金額の推移

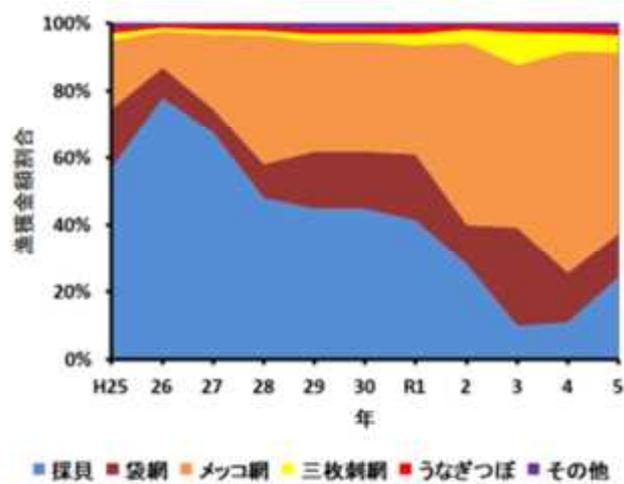


図4 漁業種別の総漁獲金額に占める割合の推移

最後に、主要 30 魚種（銘柄）について、浜名漁協の支所別の漁獲量を表 1 に、月別の漁獲量を表 2 に示しました。なお、入出支所の水揚量は平成 18 年 4 月から鷺津支所に、気賀支所及び白洲支所の水揚量は平成 22 年 1 月から雄踏支所にそれぞれ含まれています。

アサリの漁獲量は先述したとおり 363 トンで前年（196 トン）の 1.85 倍となりました。アサリを除く 29 魚種の総漁獲量は 63 トンでした。全体では 426 トンで前年（278 トン）を大きく上回りました。

令和 5 年の漁獲量の対前年比及び対平年（平成 25 年から令和 4 年までの 10 年間の平均値）比の増減により主要 30 魚種（銘柄）を分類し、表 3 に示しました。多くの魚種が対前年比及び対平年比ともに減で、対前年比で増であったのはボラ、カマス、

クマエビ及びアサリの 4 魚種にとどまり、前年並みであったのはマアジ、サヨリ、スズキ、キス、キビレ、コチ、カワハギ、ノコギリガザミ及び雑魚でした。また、対平年比で増であった魚種は無く、前年並みがマアジ、クロダイ及びノコギリガザミでした。マアジとノコギリガザミは対前年比及び対平年比ともに並みでした。

令和 5 年の浜名湖内漁業は、アサリの漁獲量が 2 年連続で前年から倍増したものの過去 10 年間の平均値の 2 割と引き続き低い値に留まっており、厳しい状況が続いています。また、1980 年代に比べて近年漁獲量が著しく減少しているハゼとクルマエビは対前年比減となっており、その傾向がさらに進んだのではないかと危惧されます。一方で、ノコギリガザミは対前年比及び対平年比ともに並みであり、資源が維持されている数少ない魚種とみられます。

表1 令和5年の浜名湖における主要 30 種の魚種別、支所別漁獲量(kg)

	舞 阪	新 居	鷺 津	雄 踏	合 計	前年(R4年)	R5年-R4年	R5年/R4年	平年値*	R4年/平年
コ ノ シ ロ	0	0	1,785	2,263	4,048	6,523	▲ 2,475	0.62	14,471	0.28
マ イ ワ シ	0	0	3	0	3	48	▲ 45	0.06	681	0.00
ウ ナ ギ	4	0	1,250	5,164	6,418	8,429	▲ 2,011	0.76	8,471	0.76
シ ラ ス ウ ナ ギ	49	63	41	77	230	367	▲ 137	0.63	451	0.51
ア ナ ゴ	0	0	78	372	450	721	▲ 271	0.62	917	0.49
サ ヨ リ	0	0	21	32	53	51	2	1.04	287	0.18
ボ ラ	0	0	663	281	944	536	408	1.76	1,458	0.65
カ マ ス	0	0	470	113	583	154	429	3.79	1,004	0.58
サ バ	0	0	17	14	31	123	▲ 92	0.25	147	0.21
マ ア ジ	0	0	1,734	1,112	2,846	2,407	439	1.18	2,390	1.19
カ ン パ チ	0	0	77	3	80	823	▲ 743	0.10	505	0.16
ス ズ キ	0	0	2,993	8,174	11,167	12,020	▲ 853	0.93	19,199	0.58
キ ス	0	0	42	0	42	35	7	1.20	251	0.17
ク ロ ダ イ	0	0	1,563	2,911	4,474	5,606	▲ 1,132	0.80	5,083	0.88
キ ビ レ	0	0	660	468	1,128	1,203	▲ 75	0.94	1,427	0.79
ハ ゼ(マハゼ)	0	0	699	1,118	1,817	2,174	▲ 357	0.84	5,103	0.36
コ チ	0	0	579	413	992	1,038	▲ 46	0.96	1,661	0.60
ア イ ゴ	0	0	721	23	744	3,341	▲ 2,597	0.22	1,615	0.46
ヒ ラ メ・カ レ イ 類	0	6	1,517	1,053	2,576	3,760	▲ 1,184	0.69	4,157	0.62
カ ワ ハ ギ	0	0	477	17	494	449	45	1.10	670	0.74
雑 魚	0	787	2,470	1,100	4,357	4,191	166	1.04	8,413	0.52
ク ル マ エ ビ	0	0	89	1,689	1,778	2,229	▲ 451	0.80	3,085	0.58
ク マ エ ビ	0	0	198	1,772	1,970	1,412	558	1.40	3,247	0.61
カ ニ	0	0	179	479	658	2,688	▲ 2,030	0.24	2,469	0.27
ノ コ ギ リ ガ ザ ミ	475	0	770	5,298	6,543	6,864	▲ 321	0.95	5,538	1.18
雑 エ ビ	0	0	520	2,370	2,890	6,155	▲ 3,265	0.47	5,164	0.56
雑 カ ニ	0	0	2,100	3,284	5,384	6,701	▲ 1,317	0.80	7,517	0.72
イ カ 類	0	0	249	404	653	1,257	▲ 604	0.52	2,421	0.27
タ コ	0	0	28	14	42	539	▲ 497	0.08	4,758	0.01
小 計	528	856	21,993	40,018	63,395	81,844	▲ 18,449	0.77	110,887	0.57
ア サ リ	230,780	27,774	13,538	90,622	362,714	195,657	167,057	1.85	1,551,013	0.23
合 計	231,308	28,630	35,531	130,640	426,109	277,501	148,608	1.54	1,663,376	0.26

*平年値：平成25年から令和4年の平均値

表2 令和5年の浜名湖における主要 30 種の魚種別、月別漁獲量(kg)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
コノシロ	0	0	4	252	210	376	760	623	535	581	518	189	4,048
マイワシ	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3
ウナギ	78	0	0	136	582	998	1,185	861	590	628	967	393	6,418
シラスウナギ	22	63	96	42	7	0	0	0	0	0	0	0	230
アナゴ	10	0	0	29	21	337	38	3	1	4	2	5	450
サヨリ	0	0	0	20	3	16	0	0	3	3	7	1	53
ボラ	1	0	108	103	83	70	33	77	55	206	177	31	944
カマス	0	0	0	0	3	5	2	0	56	353	160	4	583
サバ	0	0	0	0	2	22	7	0	0	0	0	0	31
マアジ	0	0	0	50	784	853	474	8	110	183	246	138	2,846
カンパチ	0	0	0	0	0	1	59	18	0	0	2	0	80
スズキ	57	0	56	489	522	550	1,247	931	1,851	2,431	2,532	501	11,167
キス	0	0	0	0	0	0	0	0	8	7	27	0	42
クロダイ	88	0	98	117	126	444	315	1,575	809	403	365	134	4,474
キビレ	1	0	0	23	65	109	148	166	341	167	91	17	1,128
ハゼ(マハゼ)	119	17	2	87	10	182	254	193	139	34	181	599	1,817
コチ	4	0	2	63	36	41	52	120	260	156	169	89	992
アイゴ	0	0	0	0	72	65	27	194	109	108	169	0	744
ヒラメ・カレイ類	73	2	14	124	142	77	137	89	221	568	564	565	2,576
カワハギ	0	0	0	0	0	0	1	64	99	79	197	54	494
雑魚	14	22	340	223	375	251	483	589	374	431	607	648	4,357
クルマエビ	0	0	0	25	270	215	800	453	11	1	3	0	1,778
クマエビ	0	0	0	0	0	10	0	401	1,140	406	13	0	1,970
カニ	3	0	0	36	21	21	69	50	151	167	110	30	658
ノコギリガザミ	82	2	2	19	27	68	543	789	1,259	811	2,032	909	6,543
雑エビ	0	0	0	0	145	584	888	461	604	160	44	4	2,890
雑カニ	30	0	0	169	325	975	1,144	811	807	589	391	143	5,384
イカ類	0	0	0	49	275	94	114	35	29	38	19	0	653
タコ	0	0	0	6	3	3	15	7	1	0	5	2	42
小計	582	106	722	2,065	4,109	6,367	8,795	8,518	9,563	8,514	9,598	4,456	63,395
アサリ	26,222	25,194	34,412	34,527	45,665	58,630	82,621	54,738	18	509	108	70	362,714
合計	26,804	25,300	35,134	36,592	49,774	64,997	91,416	63,256	9,581	9,023	9,706	4,526	426,109

表3 浜名湖における主要 30 種(銘柄)の令和5年漁獲量の対前年比及び対平年比の増減

対前年比 対平年比	対前年比		
	増	並み	減
増	(なし)	(なし)	ボラ、カマス、クマエビ、アサリ
並み	(なし)	ノコギリガザミ、マアジ	サヨリ、スズキ、キス、キビレ、コチ、カワハギ、雑魚
減	(なし)	クロダイ	コノシロ、マイワシ、ウナギ、シラスウナギ、アナゴ、サバ、カンパチ、ハゼ(マハゼ)、アイゴ、ヒラメ・カレイ類、クルマエビ、カニ、雑エビ、雑カニ、イカ類、タコ

トラフグ 2022 年漁期の結果と 2023 年漁期について

鷲山 裕史

静岡県では主に遠州灘で操業されているトラフグはえなわ漁について、2022年と2023年漁期の概要について説明します。トラフグはえなわ漁の漁獲量と平均単価の1993年以降の推移を図1に示しました。2022年漁期(2022年10月~2023年2

月)の漁獲量は6.8トンで、1993年以降の最低漁獲量であった2021年漁期の3.8トンの182%となり、それに比べれば増加したものの1993年以降で3番目に少ない漁獲量でした。平均単価は6,238円/kgで2021年漁期比89%と低くなりました。

2023年漁期（2023年10月～2024年2月）は2023年12月末現在、漁獲量が7.4トンで既に2022年漁期の漁獲量を上回っていますが、平均単価は4,230円/kgと低くなっています。

2023年に漁獲量が増加した原因を調べるためには漁期前の資源状態を把握する必要があります。そのため、漁獲の影響が少ない漁期初めの10月のCPUE（1日1隻あたりの漁獲量（kg/隻/日））を直近5年間（2019～2023年）で比較しました。もし資源が増えているならばCPUEは増加するはずで、その結果、CPUEは漁獲量が最低の2021年が最も低く（7.9kg/隻/日）、それ以降2022年（14.5kg/隻/日）、2023年（25.3kg/隻/日）と年々増加しており（図2）、資源が増加している可能性が示唆されました。

また、直近5年間の資源増加の理由について考えた結果、1歳魚の新規加入増加ではないかと推定し、舞阪港の市場調査で得られた10月の全長組成に占める1歳魚の割合を2021年から2023年までで比較しました（図3）。なお、今回は全長40cm未満のトラフグを1歳魚として計算しました。その結果、1歳魚の割合は、2021年が33.9%、2022年が58.1%、2023年が60.7%と年々増加していました。

漁期初めのCPUEが増加したこと、漁獲物に占める1歳魚の割合が高くなったことから、1歳魚の新規加入増加により資源量が増え、結果として漁獲量が増加したものと考えられます。今後、さらなる資源量と漁獲量の増加のためには、この傾向が継続することが必要です。

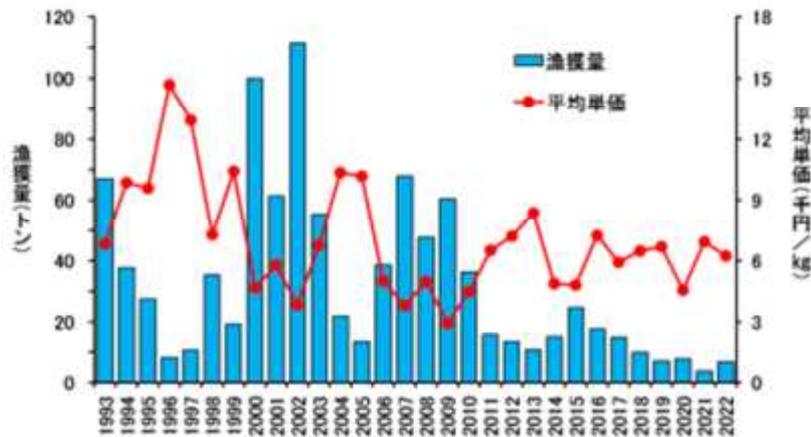


図1 静岡県における漁期年別のトラフグ漁獲量と平均単価の推移

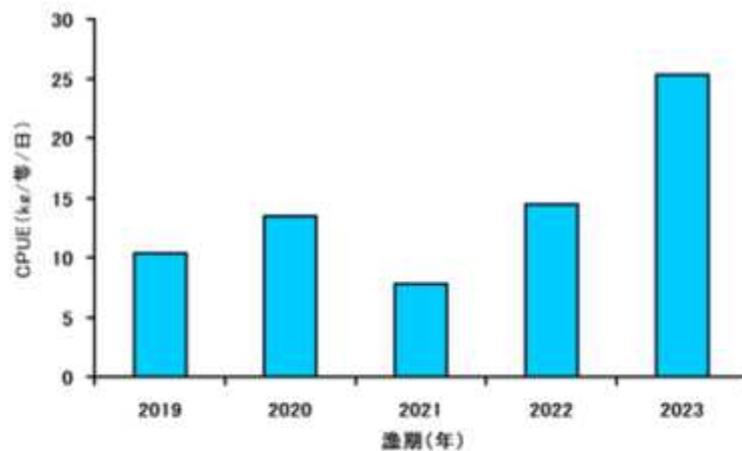


図2 各漁期年の10月のCPUE(漁獲量/延べ操業隻数/日)kg/隻/日

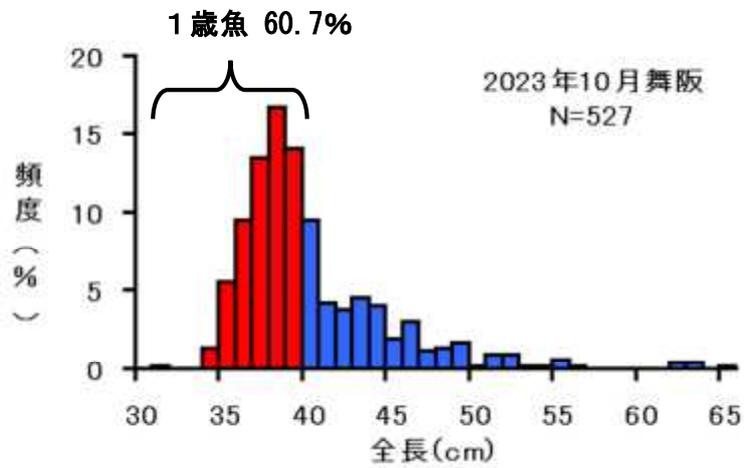
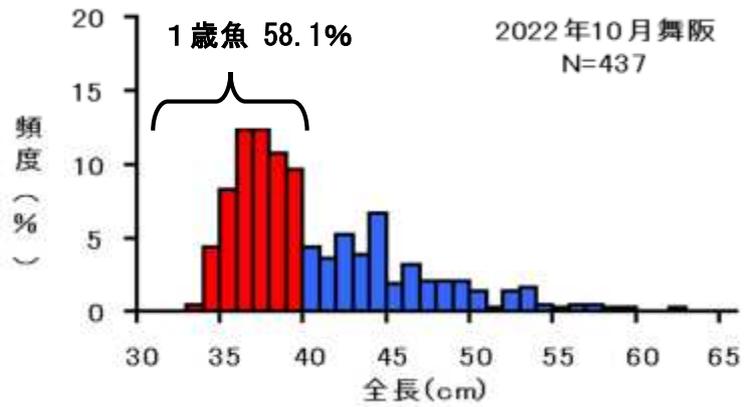
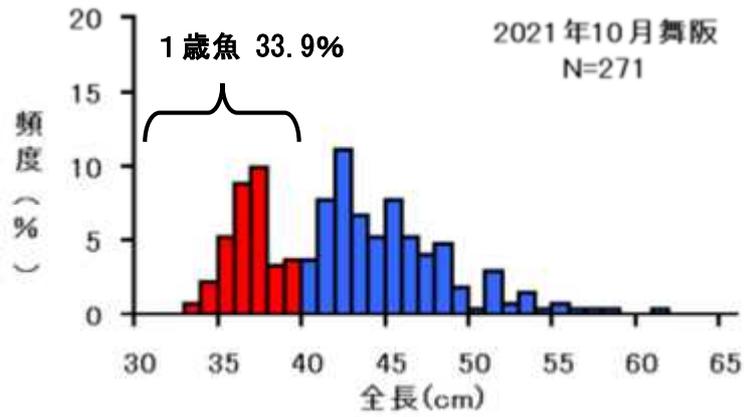


図3 2021年～2023年の10月のトラフグ漁獲物の全長組成
(■1歳魚、■2歳魚以上)

静岡県漁業士会総会の開催

霜村 胤日人

令和6年2月2日に、第30回静岡県漁業士会総会が館山寺町の「時わすれ 開華亭」で開催されました。コロナ禍の最中の総会は書面開催となっていたため、対面形式は令和2年以来です。来賓の方々をはじめ、県内各地から漁業士42人が集まり、盛大に催されました。

総会はつつがなく終了し、今回をもって退任される高田会長からは後進への激励とこれからの本県水

産業に対する期待が込められた温かいメッセージをいただきました。新会長には沼津地区の大沼健一指導漁業士が選出され、あわせて、その他の役員交代も行われて新体制が発足しました。

総会後には、漁業・養殖業におけるデジタル化の推進をテーマにした研修会が企画され、他県の事例紹介を参考に意見交換を行い、デジタル技術・機器の活用について理解を深めました。



総会の様子

西部管内で初めて農山漁村ときめき女性が認定されました

隈部 千鶴

1月23日に、静岡市で農山漁村ときめき女性認定式が開催されました。農山漁村ときめき女性とは、農山漁村の中で優れた技術や感性を持ち、産業振興や担い手指導、むらおこし活動等に積極的に行いながら、自らの人生を切り開いている今をときめく女性たちで、知事が認定しています。

今回、水産関係では地域活性化に取り組む、海鮮料理店「おせんや食堂」の鈴木沙織さん（磐田市）とCLARI MARE 代表の三浦愛（焼津市）さんの2名が

認定されました。

当分場管内で初めての認定者となった鈴木さんは、磐田市で食堂を営むかたわら、地域特産品であるシラスの普及や認知度向上を目指して、イベントへの出店だけでなく、企画運営も手がけるなど地域振興に取り組んでいます。コロナ禍による営業自粛をきっかけに始めた活動ですが、現在では地域団体と連携した活動に拡大し、地域に元気と明るさを提供しています。これらの活動が高く評価されました。

2月27日には農山漁村ときめき女性研修会が開催され、鈴木さんを含む新規認定者による活動紹介が行われました。鈴木さんは緊張した様子でしたが、ときめき女性として積極的に活動していきたいと明

るく抱負を述べていました。ときめき女性の活動や異業種間の交流を通して、新しいアイデアや考え方を吸収し、より広域的な地域活性化に貢献されることが期待されます。



認定式での記念写真
(後列中央:鈴木さん、後列左から2番目:三浦さん)

体験学習施設「ウォット」より ★ 春企画展のお知らせ ★

浜名湖体験学習施設ウォットでは、3月23日～5月19日の期間「お花見展～海の中も桜花爛漫～」を開催します。

浜名湖花博2024の開催に合わせ名前に花(ハナ)が付く生き物や花のようにカラフルな生き物を展示します。浜名湖でも見られる綺麗な生き物から浜名湖以外の生き物もご紹介、名前の由来等の解説があり老若男女興味関心が持てる展示となっております。

期間中は企画エリアの言葉を集めるとプレゼントがもらえるキーワードラリー、受賞者には特別プレゼントがもらえるぬり絵コンテスト、中庭タッチプールではウミウシのタッチプール(日・祝日限定)とどなたでも参加できるイベントも盛りだくさんです。



..
ハナミノカサゴ

皆様のご来館をスタッフ一同お待ちしております。
※本コーナーに関するお問い合わせは、ウォット
(TEL:053-592-2880) にお願ひします。

(ウォット飼育主任 工藤 隆馬)

浜名湖ウオット 春の特別企画展

お花見展

海の中も桜花爛漫

HAMANAKO UXOTTO PRESENTS

3/23(土)～5/19(日) 2024

お花のように美しい春の海にご招待!

名前の由来が植物!お花みたいにカラフル!
様々なお花に関わる生物を紹介します。

① イラストめりえコンテスト [館内・HPで台紙を配布]

受賞者5名様にオリジナルイラストマグカップをプレゼント!

募集期間 | 3/23～4/14 定数は随時満杯いたします。応募はウオット受付まで

② ウミウシタッチプール

開催日時 | 日曜・祝日 ① 10:30～ ② 13:30～(各15分程度)

開催場所 | ウオット施設内タッチプール

③ お花見キーワードラリー

開催日時 | 会期中毎日 (休館日の月曜をのぞいて全日)

※生物の状況により展示やイベントを一部変更、中止する場合があります。

会期中
イベント

浜名湖体験学習施設 **ウオット**

入館料 大人 320円
高校生以下 無料

浜名湖体験学習施設ウオット

〒411-0211 浜松市中区宮原町1-1-1 浜名湖505-5

TEL 053-92-1100

営業時間 9:00～16:30 (入館は15:00まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

※夏期・冬期・繁忙期により変更する場合がございます。

浜名湖をおもしろまじかに科学する

[X](#) [YouTube](#) [Instagram](#) [TikTok](#) [Facebook](#) [Twitter](#)

ウオット公式SNS更新中!

春企画展「お花見展～海の中も桜花爛漫～」チラシ

分場日誌（令和5年12月～令和6年2月）

【12月】

- 4日 浜名湖発親ウナギ放流
- 4～5日 漁場環境保全会議赤潮・貝毒部会
- 5日 クルマエビ種苗放流検討会
- 12日 定点観測
- 19～26日 養殖衛生管理技術者養成研修（専門）

【1月】

- 10日 定点観測
- 15～16日 しずおか認証監査
- 23日 ときめき女性認定者交流会
- 26日 魚病講習会
- 31日 新成長戦略研究事後評価

【2月】

- 2日 静岡県漁業士会総会
ウナギ資源回復研究報告会
- 6日 定点観測
- 7日 ウナギ重要疾病研究推進会議
- 8,13,14日 水産用医薬品指導巡回
- 14日 貝毒検査
- 15,20日 ウナギ種苗生産研究検討委員会
- 20日 広域種栽培検討会
魚類防疫士北海道ブロック研修会講師
- 26日 普及成果報告会
- 27日 ときめき女性認定者全体研修会

弁天島の水温・比重（令和5年12月～令和6年2月）

月		2023～2024年		平年※	
		水温	比重(σ15)	水温	比重(σ15)
12月	上旬	14.5	24.7	16.3	25.6
	中旬	15.3	26.2	14.8	25.7
	下旬	12.3	26.1	14.0	26.0
	平均	14.2	25.7	15.1	25.7
1月	上旬	14.5	26.4	12.9	26.3
	中旬	16.0	27.2	12.9	26.5
	下旬	15.1	27.4	13.2	26.6
	平均	15.3	27.1	13.0	26.5
2月	上旬	14.5	26.8	13.4	26.8
	中旬	15.7	26.9	13.1	26.6
	下旬	16.1	26.7	13.4	26.7
	平均	15.4	26.8	13.3	26.7

※ 過去10年平均

関連情報をQRコードから確認できます

浜名湖分場	広報誌「はまな」	ウォット	関東・東海海況速報
			